

平成 18 年 7 月 20 日

各 位

会社名 株式会社船井財産コンサルタンツ
代表者名 代表取締役社長 平林 良仁
(コード番号 8929 東証マザーズ)
問合せ先 常務取締役
兼執行役員管理部長 中塚 久雄
(TEL 03-5321-7020)

平成 18 年 12 月期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 12 月期 (平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日) の業績予想について、平成 18 年 2 月 14 日の決算発表時に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 中間業績予想の修正(平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日)

(1) 連結業績予想

(単位:百万円)

| | 営業収益 | 経常利益 | 当中間純利益 |
|-----------------|-------|-------|--------|
| 前回発表予想(A) | 6,642 | 751 | 414 |
| 今回修正予想(B) | 6,590 | 1,170 | 690 |
| 増減額(B-A) | △52 | 419 | 276 |
| 増減率(%) | △0.8% | 55.8% | 66.7% |
| 前年実績(17年12月期中間) | 5,612 | 698 | 407 |

(2) 個別業績予想

(単位:百万円)

| | 営業収益 | 経常利益 | 当中間純利益 |
|-----------------|-------|-------|--------|
| 前回発表予想(A) | 4,490 | 596 | 324 |
| 今回修正予想(B) | 4,315 | 830 | 480 |
| 増減額(B-A) | △175 | 234 | 156 |
| 増減率(%) | △3.9% | 39.3% | 48.1% |
| 前年実績(17年12月期中間) | 4,209 | 468 | 269 |

2. 通期業績予想の修正(平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日)

(1) 連結業績予想

(単位:百万円)

| | 営業収益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|---------------|--------|-------|-------|
| 前回発表予想(A) | 12,750 | 1,250 | 688 |
| 今回修正予想(B) | 12,750 | 1,500 | 825 |
| 増減額(B-A) | — | 250 | 137 |
| 増減率(%) | —% | 20.0% | 19.9% |
| 前年実績(17年12月期) | 11,237 | 1,115 | 640 |

(2) 個別業績予想

(単位:百万円)

| | 営業収益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|---------------|--------|-------|-------|
| 前回発表予想(A) | 10,435 | 1,173 | 645 |
| 今回修正予想(B) | 10,435 | 1,173 | 645 |
| 増減額(B-A) | — | — | — |
| 増減率(%) | —% | —% | —% |
| 前年実績(17年12月期) | 9,457 | 947 | 518 |

3. 業績予想の修正理由

(1) 中間期業績予想の修正理由

当中間期におきましては、財産コンサルティング並びに不動産取引をはじめとして、全般的に順調に推移いたしました。

財産コンサルティングにおいては、大型案件の寄与もあり、営業収益は当初計画比を 210 百万円ほど上回る 1,723 百万円（前年同月比 45%増）を計上し、利益面においても当初計画を大幅に上回る見込みとなりました。

不動産取引においては、営業収益では当初計画比 300 百万円ほど不足となったものの、連結子会社である株式会社船井エステートが取扱いをした「渋谷区神宮前プロジェクト」において当初計画を上回る粗利益を確保できたこと、また当社が 3 月に組成した不動産共同所有システム「ADVANTAGE CLUB 東京四谷・京都五条」の販売経費を大幅に削減できたことなどから、利益面においては当初計画を上回る見込みとなりました。

この結果、連結中間期業績の営業収益は前回予想比 52 百万円不足の 6,590 百万円の見込みとなりましたが、経常利益は、前回予想比 55.8%増の 1,170 百万円、中間純利益は前回予想比 66.7%増の 690 百万円となる見込みであります。

個別中間期業績につきましては、営業収益が前回予想比 175 百万円不足の 4,315 百万円、経常利益は前回予想比 39.3%増の 830 百万円、中間純利益は前回予想比 48.1%増の 480 百万円となる見込みであります。

(2) 通期業績予想の修正理由

通期業績予想につきましては、期初に立てました「下半期計画」の達成に向けて粛々と努力して参りますが、原油高やゼロ金利解除の影響及び国際情勢の不安などにより、本年度後半の経済情勢は極めて「舵取り」の難しい局面であると認識いたしております。

したがって、財産コンサルティング収益、不動産取引収益ともに、より慎重な姿勢で取組む方針であり、利益率については当初計画をさらに厳しく見積もって修正計画としております。

通期の連結業績については、営業収益は前回予想からの修正はございません。経常利益は上半期の超過分もあり、前回予想比 20.0%増の 1,500 百万円、当期純利益は前回予想比 19.9%増の 825 百万円といたします。

個別通期業績については、営業収益及び経常利益、当期純利益のいずれも前回予想の修正はございません。

なお、当社が独自で取扱っております不動産共同所有システム「ADVANTAGE CLUB」につきましては、本年度末にて時限立法の期限となる「事業用資産の買換え特例制度」の買換え対象商品としてのニーズが高く、本年 7 月の計画分だけでは消化しきれない状況であることから、本年 10～11 月を目処に新たに追加で計画する予定ではありますが、現時点においてはその詳細が未定であるため、今回の通期連結及び個別業績予想には織り込んでおりません。

※上記中間期及び通期の業績予想に関しましては、本資料発表において当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上